SSTひきこもり家族支援VR

FACE DUO

User's Voice vol.40

メンタルプラス家族支援訪問クリニック



単に「症状を診る医療」から

「その人らしい生活」を支える在宅医療へ

院長 浅見 隆康 先生

施設としての想い ～その人らしい生活を支えるために～

「その人らしい生活」を支える在宅医療	施設では、症状を診る医療だけでなく、「その人らしい生活を支える医療」を大切にしています。在宅医療を中心に、患者さん本人はもちろん、ご家族への支援にも力を入れ、地域で安心して暮らし続けられる環境づくりに取り組んでいます。 **特に重視しているのは、患者さんの「できていないこと」ではなく、「できていること」に目を向けることです。**その人が持つ力や可能性を見つめ、伸ばしていくことで、より豊かな生活につなげていきます。こうした考え方の背景には、SST（ソーシャルスキルトレーニング）の理念があります。社会生活に必要なスキルの向上や自己表現を支援しながら、一人ひとりが自分らしく生活できることを目指しています。
家族との信頼関係を大切に	施設では、家族相談を在宅医療の重要な入り口と位置付けています。ご家族が抱える不安や悩みに丁寧に耳を傾け、まずは信頼関係を築くことを何より大切にしています。これまで十分な支援を受けられず、傷つき体験を抱えているご家族も少なくありません。そのため、ご家族が安心して相談できる環境づくりが、在宅医療の第一歩であると考えています。
心理社会的アプローチを積極的に活用	**診療では、薬物療法だけに頼るのではなく、SSTをはじめとする心理社会的アプローチを積極的に取り入れています。** FACEDUOなども活用しながら患者さんとの対話を深め、その人の考え方や気持ち、生活上の課題を引き出します。そして、より良い生活につながる具体的な工夫を一緒に考え、実践につなげています。
地域医療の未来につながる取り組み	施設が目指しているのは、単に症状を改善することではありません。患者さんやご家族が前向きに生活できる状態をつくることです。その根底には、「質の高い在宅医療が地域医療を支え、ひいては日本の医療を変えていく」という強い信念があります。一人ひとりの生活に寄り添いながら、本人・家族・地域を支える医療の実現に向けて、日々取り組みを続けています。

FACEDUO導入のきっかけ ～困りごとを十分に引き出す～

在宅医療の現場では、患者さんの日常生活や対人関係に関する悩みが治療や生活の質に大きく影響しています。しかし、通常の診察だけでは本人の思いや困りごとを十分に引き出せないことも少なくありません。また、当院では開業当初から、精神疾患やひきこもりなどによって通院が困難な方のご家族をはじめ、地域包括支援センターや障がい者相談支援事業所、精神科病院などから多くの相談を受けてきました。そうした経験から、症状だけでなく、本人や家族の生活そのものを支援することの重要性を強く感じていました。もともとSST（ソーシャルスキルトレーニング）を活用し、「社会生活に必要な力を身につけ、自分のできている部分を伸ばしながら生活の質を高める」という考え方を重視しており、その実践の一環としてFACEDUOを導入しました。**実際には体験できない場面や他者の悩みを共有し、「自分ならどう感じるか」「どう行動するか」を一緒に考えることで、患者さんが自身の気持ちや考えを表現するきっかけづくりを目指しています。**



訪問診療での活用 ～動画を通じた対話が生む変化～

FACEDUOは主に訪問診療の場面で活用されています。動画を視聴しながら、「この人についてどう思いますか」「自分ならどう感じますか」「生活しやすくするためにどのような工夫ができそうですか」といった対話を行い、状況の理解から改善策の検討、さらには実際の行動練習まで発展させることもあります。
題材は患者さん一人ひとりの課題に合わせて選択しており、就労支援事業所でのあいさつ、対人コミュニケーション、感情の伝え方など、日常生活に直結するテーマを用いています。



CASE 1

20代（発達障害・うつ病併存）

当初は会話がほとんどなく、気持ちや考えを表現することが難しい状態でした。しかし、動画視聴後の対話を継続することで、**就労支援事業所やグループホームで自らあいさつや声かけができるようになり、対人コミュニケーションの改善がみられました。**

CASE 2

60代（発達障害・統合失調症併存）

診察時の会話が体調報告に限定されがちでしたが、動画を活用した対話を重ねることで、「私はこう思う」「こう考える」と自身の考えを言葉にできるようになりました。**自分の気持ちや考えを整理しながら表現する力が向上し、診察だけでは見えにくかった本人の思いを把握できるようになっています。**

実践を通じて見えてきたこと

在宅医療では、患者さんやご家族と継続的に関わる中で、生活上の困りごとや人間関係の課題が数多く見えてきます。その中で、**FACEDUOは患者さんが自身の状況を客観的に振り返り、気持ちや考えを整理するための有効なコミュニケーションツールとなっています**。また、通常の診察では表出しにくい悩みや不安を引き出しやすくなり、より本人の生活に即した支援につながることが分かってきました。SSTで重視される「相手の話に耳を傾け、気持ちを伝える」という考え方とも親和性が高く、患者さんとの対話を深めるきっかけにもなっています。重要なのは症状の改善だけではなく、患者さん本人とご家族がより良い生活を送れるように支援することです。**薬物療法に加え、SSTをはじめとした心理社会的アプローチを組み合わせることで、患者さんの「できること」を増やし、前向きに生活できる状態を目指しています**。その考えのもと、今後も様々なコンテンツを活用しながら、一人ひとりの生活に寄り添った支援を実践していきたいと考えています。



**「質の高い在宅医療を提供することが、
医療そのものを変えていくことにつながる」**



ひきこもり家族支援VRプログラム
FACE DUO

家族への支援
ひきこもり家族支援 VR

本人への個別支援 → 居場所への参加支援 → 段階的な社会参加支援
FACEDUO SST-VR コンテンツ

ひきこもり家族支援VRでは、家族支援の重要性と具体的な方法を学ぶ動画と冊子、VR体験による実践トレーニングにより、ひきこもりの家族に対する包括的な教育支援ができます。
また、ひきこもり当事者の対人コミュニケーショントレーニングに活用できるソーシャルスキルトレーニング（SST）プログラムがあり、
SSTプログラムは当事者のひきこもり諸段階に併せて、個別支援、生活支援（集団療法）、社会支援のコンテンツを選択することが可能です。





詳しくは公式サイトにて
faceduo 検索

販売 Otsuka 開発・製造 JOLLY GOOD!

2026年10月作成
FD2610003

FACEDUOは非医療機器です。